

平成24年度 第1回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

- 日時 平成24年9月28日(金) 9:30~11:30
○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室
○出席者 橋本 和英 委員 (市小学校長会)
富田 友子 委員 (市中学校長会)
馬上 剛 委員 (市PTA連合会)
矢野 篤 委員 (市子ども会連合会)
森山 公子 委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)
相田美智子 委員 (市レクリエーション協会)
村上 敬吾 委員 (県キャンプ協会)
会長(議長)伊東 明彦 委員 (宇都宮大学)
沼尾 順市 委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)
天谷 文夫 委員 (県林業センター)
坂内 剛至 委員 (ネイチャープラネット代表)
入江 尚見 委員 (公募)
芥川 一男 委員 (公募)

(事務局) 山口 達雄 課長補佐
坂野 忠 所長
黒須 正宏 副所長
駒野 拓也 指導主事
稲澤 正明 指導主事

- 公開
○傍聴者の数 0人

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

① 平成23年度事業報告について・・・資料 1

事務局 : (資料にそって説明)

芥川委員 : 8月は受け入れに関して休みとなるのか。

事務局 : 市内の小中学校は夏休みとなるので学校受け入れはない。この期間は、一般の方々の受け入れを行っている。

天谷委員 : 資料1-(2)を拝見すると、たくさんのアクティビティを展開しているようだ。林業センターでは、森林の大切さや生物多様性に関する周知をねらった活動に取り組んでいるが、ここではそういった観点で行っている活動はあるか。

事務局 : 「Cの自然観察体験」に属するアクティビティで主に取り組んでいる。その

他の活動でも環境教育に関する話題については折に触れ、子どもたちに興味関心がわくような取り組み方をしている。

②平成24年度事業報告について・・・資料 2

事務局：（資料にそって説明）

富田委員：中学校の冒険活動教室が3泊から2泊と日数変更があり引率教員の負担が減ったことに関してはほっとしている。しかし、その反面たくさんのアクティビティを選択できにくくなってしまった。学校の指導支援については、センターの若い職員が力強く対応しているので、学校職員の高齢化の中、ありがたく感じている。

橋本委員：小学校の冒険活動教室の中で、イニシアティブゲームは、はずせない活動だと思っている。子どもたちに達成感を味わわせられるとても良い活動だ。センターでは、たくさんの活動をもっているようだが3日間という限られた時間なので活動が限定されてしまう。また、センターで昨年度より取り組んでいる小学校同士の交流については宿泊人数の関係から学校規模によりできない場合もあるようだ。昨年度、私が所属していた築瀬小では夜に集会活動で交流を行った。今年度は姿川第一小学校にいるが、入退所式を合同で行い、他校との交流を図った。地域学校園内の小学生は、同じ中学校に入学する可能性が高いので、事前の交流は価値のあることだと思うし、また交流を図りやすい形での日程の設定はありがたく感じている。

矢野委員：学校利用時のけがの状況について知りたい。

事務局：坂道を転んでしまうことでのけがが多い。子どもたちが安全に活動できるよう園内整備にも努めている。

矢野委員：特別支援学校の受け入れについて伺いたい。

事務局：市立小中学校については該当学年の特別支援学級は参加している。

芥川委員：園内にできた蜂の巣にはどのように対処しているのか。それを話題にすることで自分を守る安全対策に関して学ばせることも大切だろう。

事務局：園内にできたすべての蜂の巣を取り除くことは難しいが、子どもたちが頻繁に通るエリアについては退治する等の対策を講じている。また、活動の折に触れ、へびや蜂などへの対応なども話題にしている。

芥川委員：蜂やへび等も含め、様々な動物と共存している環境が自然であることも子どもたちには気づかせてほしい。

村上委員：私の出身は先日の震災の被災地域である。避難所での生活は電気・水・ガス等が使用できなかった。そういった環境の中で避難生活を支えていたのは高齢者であったようだ。彼らの幼少時の実体験が生きたからだ。便利な世の中になっているが、子どもたちにも何かのときに強く生活していけるような体験をする機会を与えてほしい。

議長：まさに設立目的の1つでしょう。

事務局：子どもたちにはここでの体験から「生きる力」を身につけてほしいと思っている。ドアからドアへではなく、駐車場に降りて自分で荷物を持ち坂道を上がってくることで、園路灯も必要最小限の明るさで、夜は暗くなること、このようなことから学びのきっかけとなるような施設であってほしいと考えている。

(2) 協議事項

① これからの冒険活動事業について・・・資料 3

事務局 : (資料にそって説明)

議長 : 質問・意見等あるだろうか。

沼尾委員 : 昨年度の食中毒の件では大変ご迷惑をかけた。この場を借りてお詫び申し上げたい。

私たちは今月行われるフェスティバルでも、できる範囲で協力していきたいと考えている。地元にとって、ここは大変大切な施設だと思っているので、今後どのような連携ができるのかについて相談していきたい。また一般の方たちがさらに利用しやすい施設となってほしいと思っている。ここにある宇都宮アルプスは広葉樹が多いので、その葉が落ち、景色が良く見えるようになるこれから冬場にかけてたくさんの登山者が来るようだ。登山利用者を把握したいと思っているのだが、何か方法はないだろうか。

芥川委員 : 登山者が風呂を利用できるようにはならないのだろうか。

事務局 : 登山者に風呂使用ができるようにという要望は耳にしたことがある。今後の検討課題だと思っている。予算と絡んでくるので、登山利用者の統計を取りながら考えていきたい。

議長 : 協議事項のテーマに戻るが、他団体がここを利用して主催事業を実施するケースはどのくらいの頻度であるのか。

事務局 : 月に1回程度は必ずある。ネイチャーフレンドという団体は熱心に活動しているようだ。

坂内委員 : 連携による取り組みは良いことだと思う。エンジョイサタデーなどはやりやすいと思う。また、センターでは指導者養成にも取り組んでいるので養成した指導者を互いに活用できると良いだろう。また、先ほどの登山利用者の把握に関してだが、百名山などでは入口にカウンターがあり、自動でカウントできるようだ。しかし、それはお金がかかるので登山者カードなどを利用してはいかがだろうか。広報に関しては、素敵なHPは民間に多い気がする。ツイッターなどの活用はいかがだろうか。

事務局 : 登山者集計について大変参考になった。広報に関しては、今後、市全体の流れも見ながら検討していきたい。

議長 : 大学でもHPを外部に委託しているが高額である。

橋本委員 : 市小学校校長会でもHPの外部委託を検討しており、安価な業者を模索中である。以前引率で来た際に、施設内の「修理中」の看板が目立った。学校をはじめ、たくさんの利用者があるので、予算を確保していただき、素早い対応をお願いしたい。

事務局 : 大規模修繕は難しいところであるが、自前の修繕を施しながら、機能を下げないための修繕について検討していきたい。

橋本委員 : その地道な努力を伝えていきたいと思う。

議長 : この運営協議会でも予算要望の話題があった旨伝えてほしい。

芥川委員 : このセンターのような性格を持っている施設は全国にどのくらいあるのだろうか。

事務局 : 中核市の中では宇都宮市だけだと思う。

芥川委員：市内の子どもたち全員が、この施設を使って同じような体験をする機会を持つことは素晴らしいことだと思う。市としてのこのような取り組みは全国に誇れることだろう。たくさんPRしてほしい。

議長：他に話題にしてほしいことはあるか。

事務局：広報の方法についてもご紹介いただけるとありがたい。

入江委員：駐車場に車を止め、坂道を歩いてきたのだが、普段の生活をしていてこういった施設に来ると、来ただけで良さを感じる。そこで、大人対象にお茶会やそれに合わせて炊飯場でのお菓子作りなどの企画はいかがだろうか。また、森の中では楽器の音も良く聴こえると耳したことがある。そこで音楽会などはいかがだろうか。参加費も修繕費にあてられる。また、先ほど中学校での利用日数が1日減ったことについてほっとしているという意見は残念に感じた。生徒と先生が生活を共にするという貴重な体験が1日減ってしまったことを残念に思う。

橋本委員：小学校の利用日数が1日増えたので全体としては変わっていない。また、中学校の1日減に関しては、授業時数の確保等の対策も絡んでいる。

議長：他に意見はあるか。

相田委員：昔は子ども会を中心にたくさんの活動があった。中学校の利用日数が減った分、市子連などで何か対応できないものだろうか。西原地区では子ども会主体の活動に取り組んでいる。学校だけでなく、地域や家庭の考え方・取り組み方も大切だろう。

事務局：瑞穂野地区3校の小学校では4年生を対象に、学校・地域が連携して8月下旬にセンターで1泊2日の宿泊学習に取り組んだ。

森山委員：私たちの団体では、3泊4日でのキャンプを基本としていた。ところが、最近では指導者確保の関係から、日帰り2泊3日を組み合わせて取り組んでいる。活動内容はネイチャーゲームやクラフトなど多岐にわたるが、どの活動でも年齢が上の子が下の子の面倒を見るような場面が多く見られる。また、震災後に茨城県のガールスカウト所属の子どもたちが、体験を生かした活動ができたと聞いている。

私は個人的にこの施設設立の準備段階で関わっていた。施設が具体化されるにつれ、当初のコンセプトと違う点も多々あったが、今後センターを利用する方たちがますます増えてもらいたいと願っている。

議長：各委員さんからの貴重なご意見を今後の運営に役立てていただきたいと思います。

閉 会